

行ガ出來タ、其理由ハ商人ハ預金利子ノ三厘位ノ引下ヨリ
モ商品ノ値下ノ方が大キイカラ之ニ比較スレバ問題ガナイ
ト言ツテ居マシタ、貸出ノ引下モ僅カ許リ爲シタガ其影響
モ殆ドナイ、コレモ商品ノ値下リニ因ル強イ刺戟ノタメ感
ジナイモノト考ヘラレマス

將來ノ見込ハ同時ニ北洋漁業ノ將來ノコトニ關係スルノデ
アルガコレハ餘程考ヘナケレバナリマセン、露國ノ侵出ハ
昭和三年ノ始メ露國ノカラハン氏ト田中大使トノ間ニ漁業
條約ガ成立シ、コレニ依ルト漁區ガ露國側一割六分、日本
側八割四分ト云フ割合デシタガ現在デハ露國側ガ五割以上
ニシテ日本側ハ五割以下トナリ随分悪クナリマシタ
ソレカラ露國ガ日本ノ漁業權ヲ侵害スル方法トシテ毎年漁
區ノ租借料ヲ引上ゲルノデアアルガ今迄ハ爲替ガ安イカラ何
等支障ガナカツタ、然シ最後ニルーブルノ引上ゲ問題ヲ持

チ出シテ日本ノ權利ヲ侵蝕スル考ラシイノデス。租借料ハ昭和元年頃百三十八萬九千留ニシテ一漁區平均五千留位デシタガ最近ハ六百三十二萬五千留、一漁區平均一萬九千八千留トナリ、約四倍ノ増加トナツテ居ル、ソシテ今迄ハ一留二十四、五錢乃至三十錢位ニシテ平均二十七錢五厘デアツタモノガ三十二錢五厘トナツタノデス、然シ之デモ尙算盤ハ採レルガ又來年モ同様ノ問題ガ起ルカラ條約ヲ改正スル必要ガアルト云フモ、一方デハ又條約ヲ改正シテ日本側ニ不利トナルトイケナイカラ寧ロ條約ヲ廢止シテ抽象的ニ日本ノ漁業權ヲ保護スルト云フ様ニ定メタ方ガヨイト云ツテ居ル

毎年日本カラ露國ニ支拂フ金ハ約一千萬留ニシテ其内譯ハ租借料ガ六百四、五十萬留、罰金ガ約二百萬留、其他細カイモノ、拂ガ百五十萬留ト云フ所デス

北洋漁業が不況ニナル理由ハ前述租借料ノ引上ゲニ因ル關係モアルガ尙其他ニ濫獲ノ結果魚類等ノ繁殖ヲ減少セシメル爲ニシテ蟹ノ如キハ七、八年ノモノヲ獲ルノデアアルガ近頃デハ四、五年ノ若イモノヲ獲ル、漁業條約デハ網ノ目ハ一尺七寸ト定メテアルガ之ヲ絞ツテ一尺乃至八寸トナシ若イ小サイモノヲモ獲ルノデアリマス、若シ露國ノ監視ガ來ルト其絞ヲ伸バシテ監視ノ目ヲ誤魔化スト云フ有様デス、故ニ魚類ガ次第ニ減少シテ行クノハ當然デアリマス

毎年四月十日ヲ漁業ノ出航日トスルト成ルベク速力アル船ヲ以テ成ルベク沖合迄進ミ、先ヲ争ツテ漁獲シタモノデアツタガ、昨秋アタリカラ大方仕込資金ニ困ツテ行キ詰リ、今日デハ日本工船ニ經營ヲ委任セラレ統制サレタ様ナ形デアリマス

北海道ノ奥地ハ昨年末ガ豊作デシタガ價格ガ下リ不景氣ノ

爲、土功組合モ借入金ヲ爲シ之ヲ償還スルコトモ出來ヌ位
デ、今日ノ北海道ハ内地並ニ不況トナリマシタ

預金利子ハ函館ガ四分四厘、青森ガ五分ニシテ其間ニ六厘
ノ開キガアルカラ預金ガ青森ノ方ヘ流レハセヌカトノ心配モ
スル程ノコトモアリマセンデシタ、要スルニ預金利子ノ三
厘位ノ引下ハ左程影響ナク寧ロ漁業關係ノ物價ノ下落ノ方
ガ大影響ノ模様デス

永池 理事 事

下村 函館支店長

露國ノ租借料ハ日本人ガ競リ上ゲルノデハナイカ
日本人ハ露水組合ノ協定ガアツテ競上ゲルコトガ出來ナイ
ノデス

永池 理事 事

下村 函館支店長

先方ガ最低價格ヲ上ゲルカ、條約ニ最低ヲ定メテ居ナイカ
條約デハ定メテアリマセン、最低價格ヲ露國ガ示スノデス
ソレカラ網デスガ鮭、鱒ヲ獲ル網ノ造リ方ハ仲々面倒デ土
地ノ者ガ長イ經驗ト苦心ヲ重ネテ其造リ方ヲ研究シタモノ

永池 理事

ニシテ一朝一夕ニハ出來ルモノデハナイ、故ニ露國デハ自分デ造ルコトガ出來ズ皆日本人ヲ使ツテ造ルカ、函館商人カラ買入レナケレバナラナイノデス、斯ル點ハ日本人ノ方ガ器用デ到底露國人ノ及ブ所デハナイ
漁業ハ公海ニ於テ爲スカ

下村函館支店長

公海デスルノハ蟹工船ノミデス、鮭鱈ヲモ公海ニテ獲ル計畫ヲシタコトモアツタガ餘リ成績ガ好クナイ

永池 理事

昨年ハ不漁デ困ツタダラウ

下村函館支店長

然シ鱈ガ多ク獲レ一昨年ノ倍以上モアリマシタ、紅鱈ガ多イカラ罐詰ニスルニハ好都合デシタ

堀越 理事

露國ニ網ヲ賣ル爲替ハ朝鮮銀行ニ於テ取扱フガソレハ何故カ

下村函館支店長

從來ハ極東銀行ノ神戸支店ガ取扱ツテ居マシタガ昨年秋ニ之ヲ廢止シタ爲朝鮮銀行ガ取扱フノデス、近頃其支拂ハ東

堀越理事

貞弘金澤支店長

京ガ都合ガ好イノデ皆東京ニ集メテ之ヲ爲スコトニシテ居
マス

其次ハ貞弘サンオ話シ下サイ

私ノ方モ他ノ支店ト同様ニ預金ハカナリ減少シテ居マス、
昭和四年末二億六千萬圓ガ昨年中ニ二千七百萬圓即一割以
上減少シテ居マス、本年ニナツテカラモ矢張り減少ノ傾向
ヲ示シテ居リマス、本行取引先十九行ニ付テ見テモ昨年末
カラ本年三月末迄ニ預金減少シタモノ十六行ニ及ビ他ノ三
行ハ幾分ノ増加ヲ示シテ居マス

預金減少ヲ各期別ニ調べテ見マスト五年上期八百九十萬圓
同年下期千三十萬圓、今年ニナツテカラ二百七十萬圓デア
リマス、之ヲ縣別ニ見マスト福井縣ガ六百六十萬圓、石川
縣ガ四百七十萬圓、富山縣ガ千三十萬圓トナツテ居リマス
昨年下期ニ減少額ガ多イノハ富山縣ニ問題ガ起ツタ爲デア

リマス、ソレカラ取引先銀行ハ取引先以外銀行ヨリモ其減少率ハ小デアリマス

預金減少ノ原因ハ十二銀行ノ如キ好イ銀行ハ同業者預金ヲ取扱ハヌ様ニシタコトニモ困リマスガ一般的ニハ矢張り一般不況及銀行ニ對スル不安ガ主ナル原因デス

銀行預金ノ減少ニ因リ郵便貯金ガ千三百萬圓、貯蓄銀行七百萬圓、勸業銀行二百萬圓、合計二千二百萬圓ノ増加ヲ示シテ居ルカラ此方面ニ移ツタモノト考ヘラレマス

彼ノ地方ニアル中央銀行ノ支店ハ安田、明治、名古屋及勸業ノ四行分デアルガ之等ノ支店ノ預金ハ増加シテキルモノモアレバ減少シタモノモアリ地方ニ依リマチマチデアリマス

現在ノ不況ガ直ラズ又不安ガ除カレナケレバ預金ノ減少ハ尙續クモノト思フガ其額ハ今迄ヨリモ少イモノト考ヘラレマス

之ニ對スル對策トシテ今迄如何ナル方法ヲ講ジテ來タカト云フト貸出ノ回收ガ千百萬圓、現金ノ減少千萬圓、借入金ノ増加五百萬圓其他有價證券ノ處分等ヲ以テ賄ツテ來タガ今後ハ從來ヨリモ資金ノ調達ハ困難ニシテ他ニ特別ノ對策モナイカラ或ハ窮スル銀行ガ出テ來ルヤモ知レヌ

昨年富山縣ニ伏木商業及密田銀行ガ休業シマシタガ外ニモ休業同様ノ銀行ガ三四行アリマス、現在ハ其レヨリモ大キイ銀行デモ不安ナモノガアリマス

預金ガ減少シテ困ツテ居ル銀行ハ大抵缺損デ自分ニテ整理スルト重役ノ責任問題ガアルカラ他ニ合併スルコトヲ希望シテ居ル、然シコレハ誠ニ迷惑ナ話デス

ソレカラ新銀行法ニ依リ資本金ガ法定額ニ達シナイモノガ七八行アリマス、其内合併談ノアルモノ二、三行アリマスガ他ハ其儘デス

永池 理事 君ノ方デハ米ハ如何

貞弘金澤支店長 米ハ富山縣ノ方ガヨク賣レマシタ

永池 理事 人絹ハ如何、人絹ガ盛ンニナレバ預金モ増加スルダラウ

貞弘金澤支店長 人絹ハ決シテ利益ガアル譯デハナク只仕事ヲ^持ツテ居ルノ

ミデス、勞働者モ只仕事ニ就イテ居ルト云フノミデ金ハ餘
リ懷ニ入ラナイノデス

永池 理事 今後預金ハ減少スルカ

貞弘金澤支店長 今後モ減少スル見込デス、今年ノ三月迄ニ二百七十萬圓減

少シテ居ルガ、コレモ喰ヒ込ミニ困ルモノデ今後モ此喰ヒ
込ミガアルモノト考ヘラレマス

永池 理事 田舎ノ方デハ君ノ方ガ一番ヨイ様ダガ如何

貞弘金澤支店長 金澤デハ佛檀ガ盛ンデアアルガ近頃其賣行ガ少クナリマシタ

堀越 理事 アノ地方ニハ百姓ガ米ノ倉庫ノ大キナモノヲ持ツテ居ナイ

カ

貞弘金澤支店長 百姓ハ持ツテ居マセン

堀越理事 政府ノ買上米ハ何處ニ保管スルカ

貞弘金澤支店長 倉庫ヲ借リテ保管シテ居マス

堀越理事 組合ノ農業倉庫ナルモノハナキカ

貞弘金澤支店長 アリマセン、兎ニ角彼ノ三縣ニハ好イ倉庫ノ設備ガナイノ
デス

堀越理事 長ク保管スル場所ガナケレバ成ルベク早ク賣拂ハナケレバ

ナラヌデハナイカ

貞弘金澤支店長 サウデス

永池理事 福井ノ人絹ハ何千萬圓ト云フ夥シイモノト云フガ如何

貞弘金澤支店長 量ハ非常ニ増加シマシタ、四割モ増加シマシタ、然シ利益
ノアルハ保稅工場ノミニシテ他ハ利益ハナイガ只仕事ガア
ルト云フノミデス

堀越理事 輸入スルノカ

貞弘金澤支店長

輸入ハ僅少ニシテ内地モノガ多イ

永池理事

人絹ハ棉花ノ如ク天候等ノ關係ニ支配サレルコト無ク、需要ノ如何ニ依リ左右サレルノデアラウ、人絹ノ取引所ハ無イカ

貞弘金澤支店長

アリマセン、取引所ヲ作ルト好クナイトノ話デス

堀越理事

福井縣デハ日本生糸ヲ使用シテ交織ヲ作ルコトガ盛ナル様デアルガ如何

貞弘金澤支店長

福井縣デハ人絹交織ヲ作ル、然シ一時ハ儲ツタガ近頃餘リ利益ガアリマセン

堀越理事

次ニ金子サン

金子新潟支店長

新潟ニ於テハ預金ノ減少ハ少ク昨年中ハ僅カニ二百五十萬圓シカ減少シテ居ナイ、ソレカラ昨年三月末ト本年三月末トヲ比較スルト百五十萬ノ減少デス、之ヲ個々ノ銀行ニ付テ調べテ見ルト増加スル銀行モアリマス、即チ貯蓄銀行ノ

預金ハ非常ニ増加シマシタ、信州ノ銀行ノ支店ハ長野地方ノ影響ヲ受ケテ預金ノ減少率ガ多イ様デス、尤モ其支店ノ預金ガ少イカラ減少シタ額ハ二百萬圓程デ僅少デアルガ其割合ハ四割位ニ當リマス

斯ノ如ク新潟縣デハ預金ノ減少ガ少イガ最近五、六年ノ預金ノ状態ヲ見ルト新潟ニ於テハ毎年約千萬圓位増加シ、一昨年ハ九百萬圓ノ増加デアツタニ拘ラス昨年ハ二百五十萬圓ノ減少ヲ示シテ居ルカラ其差額ハ甚ダシイノデアリマス、其原因ハ主トシテ農村ノ疲弊ニ因ルモノニシテ繭及米ガ悪カツタ爲ダト考ヘテ居リマス

今年ニナツテ預金ハ二月迄ニ七百萬圓増加シマシタ、年始ニ増加スルハ例年ノ傾向ニシテ昨年モ六百萬圓ノ増加デアリマス、昨年ハ米ガ高價ナリシニ拘ラス預金増加ガ少イノハ昨年ハ米ヲ賣ラナイ者ガ多ク今年ニナツテ多ク賣拂ツタ

カラデス

女工ノ持チ歸ル金モ相當大ニシテ女工ノ數ハ從來ハ五萬人モアリマシタガ近頃デハ三萬人位トナリマシタ

毎年三月カラハ養蠶ノ關係デ新潟デハ千二百萬圓位資金ガ必要デアルガコレハ主トシテ預金ヲ引出スカラ三月以後ハ預金ガ減少スル、而シテ五月ニナレバ織物、繭、米等ガ賣レルカラ又次第ニ増加スルノガ例年ノ形勢デアリマス

農村ノ疲弊ハ甚ダシク、税金ノ拂ヘナイ者モアリ、失業者モ多イ、失業者五千人程アリマスガ其内千五百人位ハ救済ヲ必要トスル状態デアリマス、コレハ石油關係ニ於テ勞働爭議ガ多イカラデス

茲ニ最モ大キイ問題ハ米ガ昨年三百六十七萬石ノ收穫デシタガ之ガ如何ニ捌ケルカト云フコトデアリマス、内二百萬石ハ縣内ニテ消費シ百六十萬石ハ縣外ニ出ルノデスガ最近

ノ調べニ依リマス、ト昨年十月カラ本年二月迄ニ賣レタノハ
移出分ヲ加ヘテ百十萬石、縣内デ消費シタモノ百萬石、ソ
レカラ最近二十萬石減少シタカラ結局百三十萬石殘ツテ居
マス

新潟縣ニハ古イ軟質米ガ多イ、コレハ適當ナル乾燥ノ設備
ガナイカラ少シ雨ガ降ルト田ガ沼ノ如クナリ乾カスコトガ
困難ナル爲ニシテ斯ル米ハ長ク持ツテ居ルコトガ出來ナイ
カラ古米ヲ早く賣ル様ニ考ヘテ居マス、現在コレガ百萬石
位アリマス、是等ハ大抵荷爲替トナツテ出テ行キ問屋ノ手
ヲ經ナイ、皆注文ニ應ジテ地主カラ直接買フノデス、地主
ハ皆資力アリ自ラ倉庫ヲ所有シテ居テ之ヲ保管スルカラ困
ラナイガ保管スベキ倉庫ノナイ中間ノ者ハ米ノ相場ニ關係
ナク早く手離スノデアリマス、斯様ナ次第デ現在殘ツテ米
ハ皆地主ノ分デス

堀越 理事

金子新潟支店長

政府ノ買上モ最近三十萬石ニ上リ、此調子デ行ケバ米ハ殘
ラナイ見込ニシテ尙價格ガ前ヨリモ四五圓上ツテ居ルノデ
好都合デス現在新潟ノ軟質米ハ一石十七圓位デス。米ガ軟
質ナル爲、何カヨイ方法ニ依リ長ク保存スルコトヲ研究シ
知事等ガ農業家ヲ招イテ種々相談シテ居ル様デス、然シ何
分ニモ二萬町歩モアル廣イ土地ガ水氣ヲ含ンデ居ルノデア
ルカラ致方ガナク、今デハ柳ノ木ニ掛ケテ乾シテ居ル様ナ
始末デスガ今後ハドウシテモ其對策ヲ講ズル必要ガアルモ
ノト考ヘラレマス

公課租税ノ多額ナル爲農家ガ困ツテ居ルモノガ随分アルカ
ラ之ヲ輕減スルコト、シ其爲ニ戸數割ヲ四割程減額シマシ
タ、故ニ此方面ノ難ハ幾分逃レタ譯デス

租税ノ輕減ハ實行シタルカ

税金ノ負擔ニ耐ヘヌ者ガ非常ニ多イカラ出來ル丈ケ之ヲ輕

減スル様ニシマシタ、ソレカラ又小學校ノ教員ノ俸給ガ高
イト云フノデ之ヲ減額シ寄附金ノ形トシテ居ル様デス
水害ノ設備モ完成シ先月二十二日カラ水ガ通ル様ニナリマ
シタカラ水害ハ無クナツタ譯デス

以上ヲ綜合シテ考ヘテ見マスト銀行トシテハ預金ハ割合減
少セズ今後モ銀行ガ悪クナルトハ考ヘラレマセン、預金利
子ハ^{市、地方}二月一日ヨリ三厘引下ゲテ五分トナリマシタガ他ノ地
方デハ警戒シテ利下ヲセズ五分二厘ノ所モアリマス、高率
預金ハ整理シテ居マス、銀行ノ收益勘定ハ縣下全体デ六分
七厘位ニ當リマス

堀越 理事

新潟ノ預金ガ長岡ノ銀行ヘ行クニトハナイカ

金子新潟支店長

反對ニ長岡カラ來マス、金利ガ安クトモ來ルノデス

堀越 理事

長岡ノ銀行ハ餘程信用ガ無イト見エルネ

金子新潟支店長

サウデス

堀越 理事

サウスルト結局新潟縣ガ最モ好イ譯ダネ

金子新潟支店長

他ニ煩ヒサレ~~ヌ~~カラ矢張り最モ好イ様デス

堀越 理事

繭ハ如何

金子新潟支店長

約百六十萬貫アリマス、金額ニシテ約千萬圓餘リ、ソレカ

ラ織物ガ三千萬圓位アリ、織物ハ割合ニ宜シイ

永池 理事

織物ハ高級品ガ廢レ、銘仙ノ様ナ惡イモノニナツテ來タ様

デアルガ如何

金子新潟支店長

小千谷織ノ如キ高級品ハ減ジ御召ガ殖エマシタ、小千谷織

ハ今デモ手織デナケレバ出來ナイカラ百圓モシマス。十日

町デハ明石ガ非常ニ出來ル、仙臺平モ出來マス、其中ニハ

二十歳前後向ノ尖端的ノモノモアリマス

堀越 理事

織物ハ絹物許リカ

金子新潟支店長

十日町ハ純絹デ多少人絹ノ交ルモノモアリマス、見付及栃

尾ノ方デハ絹綿交織ニシテ五泉デハ羽二重、紹ノ純絹デア

堀越理事

リマス

織物ノ善イモノハ純絹デスカ

金子新潟支店長

純絹ハ糸ガ高イヲ思惑ハ出來ズ皆註文ニ應ジテ織ルノデ
スガコレハ多少利益ハアル様デスガ他ハ餘リ利益ハナイ様
デス

堀越理事

新潟縣ハ兎ニ角他ノ各縣ニ比較スルトヨイ様ダ

菊池京都支店長

次ニ菊池サンオ話シ下サイ
簡單ニ申上ゲマス、私ノ管内モ良イ方面ト惡イ方面トガア
リマス、前ニ名古屋支店長ガ話サレタ様ニ都市ノ方ハ良ク
町村ノ方ハ惡イ様ニ數字ニ現ハレテ居マス、又同シ都市ノ
銀行中ニテモ大銀行ニ預金ガ偏在シテ居ルノモ現ハレテ居
マス、今假リニ府下ノ本店銀行ニ付テ見マスト昭和四年六
月濱口内閣ノ出來ル前即不景氣カ起ル前ト本年三月トヲ比
較シマスト總預金四千八百七十萬圓ガ四千五百四十萬圓ト

ナリ三百三十萬圓ノ減少ニシテ同ジク郡部デハ千八百三十萬圓ガ千三百九十萬圓トナリ約五百四十萬圓ノ減少ヲ示シテ居マス、滋賀縣デハ七千百萬圓ガ六千四百四十萬圓トナリ六百六十萬圓ノ減少ニシテ、其郡部デハ千六百九十萬圓ガ千五百五十萬圓トナリ百四十萬圓ノ減少デアリマス之ニ反シ京都市組合銀行全体ノ同期間ノ預金ヲ見ルト三億千七百四十萬圓ガ三億三千六百三十萬圓トナリ千八百九十萬圓ノ増加デアリマス、其ノ内三井、三菱、住友、第一ノ四行分ハ三千百八十萬圓増加シ其他ノ分ハ逆ニ千二百八十八萬圓ノ減少ヲシタ勘定ニナリマス、資金ノ都市集中ハ大銀行へ著シク集リ、其他ニ貯蓄銀行ガ少シ殖エテ居マス、地方銀行デモ十二月末ハ店頭ヲ飾ル爲資金ヲ増加シマスガ其他ハ減少シマス

今年ニナツテカラ府下本店銀行ハ二月ニハ増加シマシタガ

三月ニハ又減少シマシタ、然シ滋賀縣デハ減リマセンデシ
タ

今後ノ見込ハ全体ノ數字ノ上デハ多少減ル感ガアリマスガ
市内銀行ハ増加スルト思ヒマス

地方銀行ノ預金減少ノ原因ハ地方ノ疲弊ト資金ガ都市ニ偏
在スルコトガ其主ナルモノデス、其他滋賀縣デハ休業銀行
ガアリマスカラ不安ニ因ルモノモアリマス、其後京都府ノ
郡部ニモ信用ノ衰ヘタ良クナイ銀行ガアリマス

對策トシテハ名案ガアリマセン、マア消極的ニ預金利子ノ
申合セヲ破ラヌ様ニシ、預金引出者ニハ成ルベク譯ヲ話シ
テ預金ヲ置イテ貰フ様ニスル位ナモノデス、ソレカラ預金
ノ減少ガ甚ダシクシテ存續スルコトガ危ナイ銀行ハ他ニ合
併シテ信用ヲ高メ又競争ヲ止メテ利益ヲ擧ゲ度イト云フ様
ナ希望ヲ述ベテ居タ者モアリマシタガ餘リ具体化シナイ様

デス

堀越理事

滋賀縣ノ方ハ如何

菊池京都支店長

矢張り預金ハ減少シテ居マス、ソレカラコレハ餘談デスガ江州ノ或ル預金者ガ三千圓ノ定期預金ヲスルニ百圓宛三十口ニ分ケテシタコトガアリマシタガ一体自分達ヲ信用シテ居ルノカドウカ分ラヌト言ツテ居マシタ、百圓ニ分割スルノハ休業等ノ場合ハ全額拂ハレルカラデス

堀越理事

菊池京都支店長

前ニ對策トシテ話サレタ内今後成ルベク協定ヲ破ラヌ様ニスルト云フト從來ハ協定ニ反シテ居タモノガ多クアツタカ表向ハ破ラヌニシテ居ルガ裏面ニハ協定破リガアリマス、ソレカラ四月ノ金利引下後ハ未ダ大口ハナイケレドモ定期預金ノ期日ガ來ルト引出シテ利廻リノ好イ有價證券ヲ買フモノモアリマス、大体一流銀行ノ預金ハ別ダガ二流銀行ノ分ハ利子ヲ目當ニシテ居ルモノダカラ利下ヲスルト減

堀越 理事

少セヌカト心配シテ居ル位デス

金融緩慢デモ小銀行ノ預金ハ減少スル而シテ中央ノ銀行ハ金ガ餘ツテ居ルカラ利下ヲスル、地方銀行モ之ニ從ツテ利下ヲシナケレバナラナイ状態ニアルノデアアルガ實際ヲ言フト利子ヲ引^上ゲテ預金ヲ集メタ方ガ良イカモ知レナイガ、今ノ所デハ假令利上ヲシテモ預金ヲ集メルコトハ出來ナイ利子ヲ引上ゲルト收支勘定ガ悪クナル、故ニ利子ノタメニ預金ハ減少スルガ収益ヲ上ゲル爲ニハ利下モ已ムヲ得ナイト思ヒマス

菊池京都支店長

永池 理事

織物ハ如何

菊池京都支店長

昨年ノ秋及暮ヨリモ次第ニ良クナル様デス、西陣ハ一月、二月、三月ト次第ニ殖エテ居マス、消費稅カラ見マスト昨年十二月百九十二萬圓デシタガ之ガ漸増シテ居ルノデス
勞銀ハ如何

堀越 理事

菊池京都支店長

少シツ、下ツテ居ル様デスガ最近ハドウデスカハツキリ分

リマセン

堀越 理事

ソレデハ之ニテ第一ノ問題ハ打切ルコトニシテ明日ハ第二

問ニ移リマス

(午後四時四十五分閉會)

第四日 (五月十四日)

一、諮問事項 第二項ニ付テ

一、考査部主事取引先銀行ノ狀況ニ付テ

(別紙ノ通)

諮問事項 第二項ニ付テ

昭和六年五月本支店事務協議會諮問事項第二ノ議事要旨

(五月十四日)

一、諮問事項

本行ニ於ケル商業手形以外ノ割引手形ノ署名者ハ從來割引依頼銀行ノ行員ヲ振出人及支拂人トシ銀行ヲ受取人トスルヲ普通トセルカ手形署名者タル行員ハ當初ヨリ斯カル手形債務ヲ負擔スル意思無キヲ以テ其退職等ノ場合債務ノ承認ヲ爲サ、ル虞ナシトセス而シテ主タル手形債務カ時効ニ因リ消滅シタル場合ニハ其裏書債務モ共ニ消滅スルコト、ナル斯カル故障ノ發生ヲ避クル爲如何ナル方法ヲ採ルヲ適當ト考フルヤ

一、本件諮問事項ニ對シテハ大体左ノ五案アリタリ

第一案 手形貸付ノ方法ヲ採リ即單名手形トスルコト

第二案 手形ノ形式ハ現行ノ儘トシ別途ニ消費貸借證書ヲ徵求スルコト

第三案 銀行ヲ手形ノ支拂人(引受人)即手形上ノ主タル債務者トシ

取締役個人ヲ受取人トシテ銀行ニ裏書讓渡ノ形式ヲ採ルコト
第四案 銀行ヲ手形ノ支拂人一引受人一即手形上ノ主タル債務者トシ

行員ヲ受取人トシテ銀行ニ裏書讓渡ノ形式ヲ採ルコト

第五案 特別融通ノ手形ニ限り取締役個人ヲ手形ノ支拂人一引受人一

即手形上ノ主タル債務者トシ銀行ヲ受取人トシ而シテ成規融
通ノ場合ニハ從來ノ形式ニ依ルコト

前記諸案ノ可否ニ付テハ左ノ如キ意見アリタリ

(イ) 第一案 本行ノ保證品附割引手形及特殊割引手形ハ其形式割引手形

トナリ居ルモ實質手形貸付ト異ナラス只條例定款ノ定メニ適合セシ
ムル爲カ、ル形式ヲ採ルニ過キササルヲ以テ根本論トシテハ條例定款
ヲ改定シテ此ノ實際ノ取引ニ適合セシムルコト妥當ノ措置ト考フル
モ今現行ノ條例定款ノ下ニ於テ稽アレハ本行ノ保有スル手形ハ市場
ニ輾轉流通スベキモノニ非ルヲ以テ寧ロ手形貸付ノ方法即單名手形
ニ依ルモ差支ナカルベシトノ意見ナリシガ之ニ對シテハ條例定款ニ

所謂貸金ハ抵當品擔保ニ限ラレ見返品ヲ擔保トスルコトハ認メラレザルヲ以テ不可ナリトノ反對意見アリタリ

尙本案ニ付テハ現在横濱正金銀行ニ對スル外國爲替貸付カ手形ヲ擔保トスル證書貸付ノ形式ヲ採リ居ル事實アルガ故ニ當初此ノ取扱ヲ認ムルニ至リタル事由モ調査シ其ノ事由如何ニ依リテハ本案モ亦考慮ノ餘地アルヘシトノ意見アリタリ

(口) 第二案 多年慣行ノ手形々式ヲ此際變改スルコトハ一面ニ於テ本行自ラ此ノ形式ニ不備アルコトヲ認容スルモノト解セラル、虞アルヲ以テ手形ノ形式ハ現行ノ儘トシ別ニ消費貸借證書ヲ徵求スルカ又ハ割引依頼表ニ其ノ趣旨ヲ明ニ爲シ置クトキハ本行カ萬一手形上ノ權利ヲ失フガ如キ場合ニモ尙消費貸借債權ノ存在ヲ立證シテ本行ノ權利ヲ保全スルコトヲ得ルノ便アリトノ意見ナリシガ之ニ對シテハ本行ノ手形割引ニ於テハ消費貸借債權並存スルヲ以テ不要ナリトノ意見モアリ、又特殊ノ取引ニ付テナラバ考慮ノ餘地アルモ日常ノ成規

取引ニマデ其ノ都度消費貸借證書ヲ徵求スルコト、スルハ其ノ煩ニ堪ヘザルノミナラズ又其ノ必要モナカルベシトノ反對意見モアリタリ

(ハ) 第三案及第四案 共ニ主タル債務者ヲ銀行トスルモノナルガ此ノ形式ヲ採ルトキハ諮問事項ニ所謂主債務者關係ニ基ク故障ノ發生ヲ避クルノ便アルコトハ一般ニ認メラレタルモ本案ニ對シテハ從來手形ノ主タル債務者ヲ行員トセルハ條例及定款ニ所謂商業手形ノ形式ヲ採ランガ爲ニ考案サレタルモノカトモ思惟セラル、ガ若然リトセバ今本案ノ如キ銀行振出引受ノ手形ハ形式上之ヲ商業手形ト認メ難キコト、ナルノミナラズ一方ニ又本行ノ一般融通ノ手形々式ニ銀行引受手形ノ形式ヲ採ルハ好マシカラズトノ反對意見モアリタリ

(ニ) 第五案 取締役個人ヲ主タル手形債務者トスルコトハ債務承認ヲ拒否セラル、虞比較の少ナキノミナラス主タル手形債務者カ手形行爲ヲ爲スニ當リ債務負擔ノ意思アリタルヤ否ヤニ付訴訟トナリタル場

合ニ其ノ債務者ガ銀行ノ代表者タル關係上債務負擔ノ意思ナカリシモノト認定セラル、虞ハ之ヲ行員ノ場合ニ比シ少ナキモノト考ヘラレ而シテ手形ニ關シテ問題ノ起ルハ特殊擔保ノ場合ニ其ノ例多ク、成規擔保ノ場合ハ之カ處分等モ容易ナルヲ以テ成規融通ノ手形ニマテ及ホス必要ナカルベク又本案ノ手形形式ヲ成規融通ニモ及ボストキハ取引先タル支店ヨリ本行ニ割引ヲ求ムル場合困難ヲ伴フコト、ナルヲ以テ本案實行ノ範圍ハ之ヲ特殊手形ニ限ルコト、スルヲ可トスベク、只取締役個人ノ手形行爲ニ付監査役承認ノ手數ヲ要スルモ特殊擔保ノ融通自体ガ已ニ特別ノ場合ニ限ルモノナルヲ以テ其ノ場合カ、ル手數モ亦已ムヲ得ザルベシトノ意見ニシテ實行案トシテハ贊成多カリシモノト考ヘラル

考査部主事取引先銀行ノ狀況ニ付テ (原稿)



全國普通銀行最近二ヶ年間預金増減

シ
ン
デ
ケ
ー
ト
銀
行
主
要
銀
行
中
小
銀
行
證
券
銀
行
取
引
先
銀
行
取
引
先
外
銀
行
總
計

昭和四年三月ヨリ五年三月		昭和五年三月ヨリ六年三月	
増減(△)額	割合	増減(△)額	割合
△ 二〇、七八六 <small>千圓</small>	〇、四四 <small>%</small>	一六三、九八六 <small>千圓</small>	三、四八 <small>%</small>
△ 一九、九八六	〇、八	△ 一七五、九七九	七、三三
四、三八一	〇、九二	△ 三八、七一四	八、四一
△ 一三、八六八	二、九二八	△ 一、四二一	四、六八
△ 四九、二五九	〇、六三	△ 五三、一二八	〇、六九
△ 一八、八六九三	一、三八一	△ 二二、三九三〇	一、七五九
△ 二三、七九五二	三、六一	△ 二七、五〇五八	三、一〇

1

最近一ヶ年間取引先銀行ノ地方別預金増減（昭和六年三月末殘高）
單位千圓

	増加			減少			割合
	金額	行數	行數	金額	行數	差引増減(△)	
本店	一八四五七二	九	一三九〇四二	二六	四五五三〇	一・二%	
大阪	一一四三二三	七	二〇七七五	七	九三五四八	四・六	
門司	一七五三	三	一四一二三	一〇	一一三三七〇	六・八	
名古屋	四三三	二	五一三六四	一八	△五〇九三一	七・〇	
小樽			六八七八	二二	△六八七八一〇	一	
京都	一五四	一	六一四七	五	△五九九三	七・三	
福島	三五二〇	三	八〇六〇	一一	△四三三〇	二・六	
廣島			四四六〇	六	△四四六〇	三・三	

2

3

	神 戶	岡 山	松 江	秋 田	熊 本	松 本	新 潟	金 澤		
合計									金額	增加
三一、二五一				一四三		五五	四六六五	一、六三三	行數	
三六三				一		二	四	四	金額	減少
三三、三二一	九一七二	一三、八八六	六、四四二	三、七〇三	三、五〇五	一八、六〇五	五、五八四	二〇、五七五	行數	
一三九	七	二	三	七	五	七	八	一五	差引増減(△)	
△二、〇七〇	△九一七二	△一三、八八六	△六、四四二	△三、五六〇	△三、五〇五	△一八、五五〇	△九一九	△一八、九四二	割合	
〇・二六	四・九	一〇・五	七・七	四・四	九・二	三一・四	〇・六	八・七%		

保證及信用實際貸出高

銀行種別	四年下		五年下		比較増減(△)
	千圓	%	千圓	%	
シンチケート銀行	九二八〇八七		一〇五四五五四		十一千六百四十七
主要銀行	五二四六二〇		五〇四三五〇		△二〇、二七〇
中小銀行	一〇四八二五		一〇三、三九五		△一、四三〇
證券銀行	三六、九三三		二八、五八九		△八、三四四
貯蓄銀行	六六九三		四、三九六		△二、二九七
計	一、六〇一、一五八	三一%	一、六九五、二八四	三三%	九四、一二六
總貸付高ニ對スル割合		三一%		三三%	二%

4

不動産擔保貸付額ノ擔保不動産評價額ニ對スル割合（單位千圓）

計	貯蓄	證券	中小	主要	ケ シ ン チ	昭和四年下半年期末			昭和五年下半年期末			掛目
						評價額	債權額	掛	評價額	債權額	掛	
二、〇〇九、七六〇	一五、九五五	一三、四二六	二六九、九三八	一、二七〇、九八六	五四〇、四五五	一、〇三八、〇二三	五二	五五〇、三七七	三、一四、二七九	五七	掛目	
二、〇〇九、七六〇	一五、九五五	一三、四二六	二六九、九三八	一、二七〇、九八六	五四〇、四五五	一、〇三八、〇二三	五二	五五〇、三七七	三、一四、二七九	五七	増減(△)	
二〇、五	五四	六六	五六	五〇	五二%	二〇、五	五四	六六	五六	五二%		
二〇、八〇三	五三△一	六九三	五一△五	五二	五	二〇、八〇三	五四	六九三	五一△五	五		

總貸付額ニ對スル不動産擔保
貸付ノ割合

5

株式擔保貸付額ノ擔保株式評價額ニ對スル割合（單位千圓）

總貸付額ニ對スル株式擔保貸付割合	昭和四年下半年期末						昭和五年下半年期末					
	計	貯蓄	證券	中小	主要	シソチケート	計	貯蓄	證券	中小	主要	シソチケート
	六、五三、一六〇	二〇、三一四	六六、〇三三	一一、五四二六	六一、四七四	一、一三八、三六四	一、四三、九七一	二〇、九四三	六三、一一四	九、八一三七	五〇、二一七六	一、一五七、二七七
	一、四三、九七一	一七、八三二	五四、七四八	八、二八一六	四六、〇三三六	八二、三九八三	一、三六、四七〇	一七、三三三	五〇、四八六	七、四七一八	三九、五四四〇	
	二八二	八八	八三	七二	七五	七二%	七四	八八	七二	七五	七二%	
全	一、四三、九七一	二〇、九四三	六三、一一四	九、八一三七	五〇、二一七六	九、五七、二七七	一、三六、四七〇	一七、三三三	五〇、四八六	七、四七一八	三九、五四四〇	
上	一、三六、四七〇	一七、三三三	五四、七四八	七、四七一八	四六、〇三三六	七二、三、〇七〇	一、三六、四七〇	一七、三三三	五〇、四八六	七、四七一八	三九、五四四〇	
	二、四、七、△三、五	八、三、△	八、〇、△	七、△	七、△	七、△%	七、△	八、三、△	七、△	七、△	七、△%	
		上	三	四	四	四%		上	三	四	四%	

主要損益比較表（昭和五年中）

（單位千圓）

計	四年ニ對スル 増減 △	基礎額ニ對 スル割合四年中 全上	五年中 全上	貸出收入	證券收入	預金利息	經費	差引	
								利益	四年ニ對スル 増減 △
シンヂケ ト銀行	一六八、〇九〇	六、二三	五、九六	一〇七、五六八	一七六、九五二	四九、三五九	二五、五三	四九、三〇七	二五、五三
主要銀行	一一〇、九五七	六、二三	五、九六	四二、四五八	八七、一八二	二九、八九八	三六、三三五	一一〇、九五七	△五、五四
中小銀行	二九、三〇七	六、二三	五、九六	八、八一八	二一、〇〇六	七、二三三	九、八八六	二九、三〇七	△一、二一〇
證券銀行	七、八四二	六、二三	五、九六	一、五五九	八、二七	一、一〇一	七、四七三	七、八四二	△一、〇二五
貯蓄銀行	六、四八五	六、二三	五、九六	二、三五三	二、五五一	四、五四七	二、九四〇	六、四八五	△五、八
計	三二二、六八一	六、二三	五、九六	一八三、九五六	三〇八、五一八	九二、一三八	一〇五、九八一	三二二、六八一	△二、九四
四年ニ對スル 増減 △	△一五、五四二	六、二三	五、九六	△五、七五一	△一七、六九八	△三、三〇一	△二、九四	△一五、五四二	
基礎額ニ對 スル割合四年中 全上	六、二三	六、二三	五、九六	五、八一	四、一一	一、二〇	一、一五	六、二三	
五年中 全上	五、九六	六、二三	五、九六	五、八一	四、一一	一、二〇	一、一五	五、九六	
全上 差	△〇、二七	六、二三	五、九六	△〇、一六	△〇、二二三	△〇、〇五	△〇、〇五	△〇、二七	

不良債權並ニ其貸出總額ニ對スル比率（單位千圓）

銀行種別	四年下期		五年上期		五年下期	
	不良債權	貸出總額ニ對スル比率	不良債權	貸出總額ニ對スル比率	不良債權	貸出總額ニ對スル比率
シンチケ ト銀行	七六、八六二	二、五七九	九六、〇九五	三、〇一一	一〇、五六四〇	三、三五
主要銀行	二〇二、五九三	九、八〇二	二〇五、四七七	九、九〇二	二〇三、四三一	一〇、五三
中小銀行	一九、三二二	四、八三一	一九、九二八	四、九九	二〇、四五五	五、三二
證券銀行	一九、一九三	一、六四三	一八、七八六	一、三七七	一八、七四七	一、四、八四
貯蓄銀行	三七九	〇、四三	一、一七五	一、二九	九、七六	一、〇二
總計	三一八、三四九	五、六二	三四一、四六一	五、七九	三四九、二四九	六、一三

所有有價證券評價調 (單位千圓)

銀行種別	四年 下期		五年 上期		五年 下期	
	帳簿價格	評價損(△)益	帳簿價格	評價損(△)益	帳簿價格	評價損(△)益
シンヂケ ト銀行	二〇〇、一一四	二四、九七二	二、八七三、八七六一〇	〇、〇六〇	一、八九一、四三二	四、六二五
主要銀行	八八九、三二八	一七四	八七三、三七三	△一、九五〇	八四三、九五八	△九九九八
中小銀行	一四七、二五六	△二六六	一四六、二三三	△四、四八一	一四三、六六四	△三、六一六
證券銀行	五五、三九九	二三四	四三、五七〇	△一、一〇九	三八、九五二	△一、八六三
貯蓄銀行	三九一、〇三五	八、一九九	四〇三、四六〇	五、二九四	四〇二、二五五	四、五二六
合計	三、四八四、一三二	三三、三一三	三、三三九、五二二	△二、一八七	三、三二四、二八一	△八、三二七

滞貸銷却高（單位千圓）

銀行種別	四年下期		五年上期		五年下期	
	銷却高	不良債權ニ對スル比率%	銷却高	不良債權ニ對スル比率%	銷却高	不良債權ニ對スル比率%
シンヂケ ト銀行	一、二八三	一、六四%	一、六三〇	一、六六%	二、〇七四	一、九二%
主要銀行	五、一〇六	二、四五%	六、〇二四	二、八四%	※一、九一八	〇、九三%
中小銀行	二、五三六	一、一六%	一、三三七	六、三〇%	五、五一	二、六二%
證券銀行	三九	〇、二〇%	二〇	一、〇六%	二二	一、一七%
貯蓄銀行	二三	五、七二%	九	〇、七六%	一八	一、八一%
總計	八、九八七	二、七四%	九、〇二〇	二、五七%	※四、五八三	一、二九%

※十五、興信、中國ヲ除ク

證券銷却高（單位千圓）

銀行種別	四年下期		五年上期		五年下期	
	銷却高	銷却率 %	銷却高	銷却率 %	銷却高	銷却率 %
シンデケ ト銀行	三、二四八	〇、一六	五、九二六	〇、三一	一、四五五	〇、〇九
主要銀行	五、八三七	〇、六五	一〇、四二五	一、一八	三、五二六	〇、二九
中小銀行	一、六二六	一、〇九	三、六五七	一、九一	一、一六六	〇、七九
證券銀行	一、二二	〇、二二	七、六三	一、七六	一、四	〇、〇三
貯蓄銀行	二、〇〇三	〇、五一	一、六六一	〇、四一	一、一八三	〇、二九
總計	一、二、八七七	〇、三六	二、一、四三二	〇、六五	六、六四四	〇、一九

11

不良資産、株主勘定比較表（單位千圓）

其ノ一

銀行種別	四 年 下 期		比 率
	不良資産	株主勘定	
シンチケート銀行	五、八九〇	七、九七、五七七	六、三九%
主要銀行	二〇、四一九	五、三四、三九三	三、七八七
中小銀行	一、九五八八	一、四七、一二三	一、三、三一
證券銀行	一、八九五九	三、七、八一	五〇、一四
貯蓄銀行	(十)七、八二〇	二、一、七八〇	(十)三五、九〇
總計	二、八、五〇、三六	一、五、三、八、六八四	一、八、五三

不良資産、株主勘定比較表（單位千圓） 其二

銀行種別	五 年 上 期		比 率 %
	不良資産	株主勘定	
シンヂケイト銀行	八六〇三五	八〇一七〇七	一〇七三
主要銀行	二一七四二七	五五三〇六三	三九三一
中小銀行	二四四〇九	一四五四二七	一六七八
證券銀行	一九八九五	三七七二七	三三六三
貯蓄銀行	(計四一一九)	二三五四九	(計一八二七)
計	三三三六四八	一五六〇四六九	二二〇二

不良資産、株主勘定比較表（單位千圓）

其ノ三

銀行種別	五年下期		比率
	不良資産	株主勘定	
シンヂケート銀行	一〇一、〇一五	八〇四、六三四	一二、五五%
主要銀行	二一三、四二九	四七三、六四二	四五、一五
中小銀行	二六〇、七一	一四六、五〇四	一七、七九
證券銀行	二〇、六一〇	三七、八八七	五四、三九
貯蓄銀行	(十)三、五五〇	二一、四八四	(十)一六、五二
總計	三五七、五七六	一、四八三、一五一	二四、一〇

14

秘第七五號

昭和六年十月一日

秘書役

各 部 局 長 殿



十月十九日(月曜日)より本支店事務
協議会開催セラルベク候ニ付此般及
後通際候也



審秘第一〇八號

昭和六年十月二十八日

各支店長宛

各支店長宛
別冊



審査部主事

本月御開催ノ本支店事務協議會席上ニ於ケル總裁演說要旨別冊及御送付
候也

秘

昭和六年十月十九日

本支店事務協議會
席上ニ於ケル

土方綱裁演說要旨

既ニ御承知ノ通り財界ハ内外多事多端デ大變難シイ時ニナツタカラ各管下ノ狀況モ大分變化ノアルコト、思フガ先ヅ現下ノ財界實情等ニ對スル私ノ考ヲ御參考迄ニ述ベテ見タイト思フ。

此ノ夏以來歐羅巴ノ經濟事情ガ急變シ獨逸財界ノ窮狀曝露ヲ皮切リトシテ遂ニ英國ニ於ケル金本位制停止ニ迄立到ツタ次第デアルガ此ノ間ノ事情ニ付テハ能ク御承知ノコト、思フ。此ノ空前トモ云フベキ海外事情ノ變化殊ニ所謂金融界ノ霸王タル英國ガア一云フ破目ニ陥ツタコトハ世界ニ大ナル衝動ヲ與ヘ、即チ確管ヲ安定シタ通貨トシ之ヲ「ベシス」トシテ資金關係ヲ有シ又同國ト貿易關係ヲ有シテ居ツタ諸國ハ當然ノ結果トシテ夫々著シキ影響ヲ受ケタノデアルガカウ云フ際ニ不幸ニモ我國ニ於テハ滿洲事件ノ影響モ加ハリ一層財界ニ動盪ヲ與ヘタノデアアル。今我國ガ受ケタ影響ノ程度ヲ述ベルト先ヅ英國ノ金本位停止ノ結果最近英國ニ澤山ノ資金ヲ放出シテ居タ金融業者其ノ他ハ忽チ困ツテ來タ、磅ハ

何時デモ弊ニ代ヘラレル關係上和蘭關係其ノ他ノ金融關係等カラ磅資金ヲ持ツテ居タモノハ相當多ク全体カラ云ヘバ非常ナ額ニ上ルノデアアルガ之ガ纏テ「回ツ夕。アツフ」サレタノデ第一ニサウ云フ向ガ多大ノ衝動ヲ受ケ夫レ以來正金銀行ニ對シテ弗買ノ要求激増シ正金銀行ハ自由ニ之ニ賣向ツテ來タノデアアル尤モ昨今ハ弗買モ稍下火ニナツタガ英國ノ金本位制停止以來正金銀行ノ弗賣ハ非常ナ額ニ上ツタノデアアル、此ノ結果正金銀行トシテハ之ニ對シテ弗資金ノ手當ヲシナケレバナラヌ只此ノ賣爲替ハ多ク先物デアアルカラ段々ト其ノ手當ヲスレバヨイノデ正金銀行ハ本月三日以後今日迄五回ニ亘リ七千五百萬圓ノ正貨ヲ現送シ尙月末迄ニハ右ノ現送額ヲ合セテ總額一億圓位ハ現送セネバナルマイト思ハレル、或ハ先物ノ賣爲替ニシテ取消サレルモノガアラバ夫レ丈ケ減ズルノデアアルガ現在賣約ノ全部ニ付手當ヲスルコト、ナラバ實ニ巨額ノ現送ヲ要スルノデアツテ今爰デドノ位ノ現送ヲ要スルカハハツキリ述べラレヌガ可成

リ巨額ノ金ガ出ルノデハナイカト思ハレル、暫カル狀況デアルカラ若シ
正金銀行ニ自由ニ現送サセルトスレバ現送ニ從テ十、十一、十二ト今後
月ヲ逐ツテ金融ハ使化スルコトニナルデアラウ之ニ對シテハ政府モ日本
銀行モ其ノ金融使化ヲ成ル可ク避ケル様ニシタイ意向デアルガ金融業者
トシテハ此ノ金融事情ヲ考慮シテ今カラ適當ナ方策ヲ講ジテ置ク必要ガ
アルト思フ此ノコトハ本月一日本行ニ於ケル或席上ニ於テ私カラ東京、
大阪、名古屋ノ主要銀行家ニ話シテ置イタ次第デアル。

正金銀行ノ爲替ノ賣ニ「スズツト」ガ少クテ先物ノ多イノハ投機的分
子ガアルノデ即チ非常ニ悪イ場合ヲ豫想シテ圓ノ保險賣ヲシテ居ルノガ
アルカラダト思フ然シ英國ノ金本位制停止ノ發表サレタアノ際ニ若シ正
金銀行ガ弗買ノ要求ニ容易ク應ジナカツタナラ其ノ爲ニ却テ非常ナ
刺戟ヲ與ヘテ夫レコソ最悪ナ場合ヲ生ジタカモ知レヌ、斯カル事情デ英
國ニ磅ガ「ロツタ。アツブ」サレタ爲トカ商賣上米國ニ資金ヲ要スル爲

トカ其ノ他外國投資ト云フ様ナコトノ爲ニ弗買ガアル外ニ今述べタ様ニ
保險的ナ惡イ意味ノモノモ相當アル様ニ思フ。

此ノ頃惡宣傳ガ行ハレ日本モ金ノ輸出再禁止ヲヤルダラウト云フ様ナ
コトガ唱ヘラレテ居ルガ之ニ對シテハ政府トシテハ別ニ進ンデ聲明ヲサ
レル様ナコトハセヌガ聞カレタ場合ニハ斯カル考ノ絶對ニ無イコトヲ答
ヘテ居ラレルノデアアル又日本銀行モ殊更聲明等ハシナイガ過日監督役カ
ラモ亦國際決濟銀行カラモ金輸出禁止ヲヤル様ナコトハナキヤ否ヤニ付
間合セテ來タノヲ機會ニ政府モ日本銀行モ斯カルコトハ何等問題トシテ
居ラヌ旨ヲ答ヘテ置イタ次第デアアル。

兎ニ角右述べタ様ナ狀況ヲ際ニ本月三日以降正貨ノ現送ガアリ今月中
ニハ其ノ額約一億圓ニモ達シ様トシテ居ルカラ金融ハ今後勢ヒ硬化セザ
ルヲ得ナイ、故ニ豫メ之ニ備ヘシメル必要モアリ亦資金ノ流出ヲ成ル可
ク押ヘタイトモ考ヘ之等ノ意味ヲ本行ハ幾ニ金利引上ヲ行ツタノデアアル

本行金利ノ引上ニ依ツテ其ノ結果ガドウナルモト云フコトハ簡單ニ云ヘ
ヌガ金融ガドウシテモ便化スル狀態ニナルノデアアルカラ之ヲ豫メ警告ス
ル意味デ今回ノ金利引上ハ必要ナ措置ト思フ、然シ之ガ證券市場ニ及ボ
ス影響ハ可成リ痛切デ此ノ點ハ取引先デモ随分困ルコトデアラウト思ハ
レルガ之モ已ムヲ得ヌコトデアアル。

前述ベタ様ナ悪宣傳ガ甚シイノデ實情ヲ知ラヌ人達ニ多大ノ疑惑ヲ懷
カシメテ居ル様デアアルガ我國ノ實勢ハ惡イトハ思ハレヌ貿易ヲ見テモ内
地丈ノ分ハ本年十月上旬迄ノ入超額六千八十九萬圓（十月上旬分ハ十三
港分）ニ止マリ昨年同期ノ入超額一億二千九百八十萬圓ニ比較スルト約
六千八百九十萬圓モ減ジテ居リ又全國貿易ニ付テ見テモ九月迄ノ入超額
ハ一億一千六百萬圓デ昨年同期ニ比較スレバ約一億圓ノ減少デアアル、此
ノ外貿易外ノ受取勘定ガ一億圓位ハアルダラウカラ國際收支ノ「バラシ
ス」ハ略ボ「ミット」スルデアラウ、シテ見レバ國際收支ノ狀況ハ先ヅ

良好デアルト考ヘラレルシ一方我國ニ於テ外國ノ短期資金ハ左シテ多クナク寧ロ此方カラ外國へ出テ居ル位ノアツテ現ニ外資邦債ノ所有額ヲ見テモ現在我國ガ發行シテ居ル外債總額二十二億圓位ノ内本邦側デ所有シテルモノハ約七億八千萬圓ニ上ル有様デアル以上ノ點カラ見レバ我國現下ノ實勢ハ決シテ悲觀スベキモノトハ思ハレナイノデアルカラ實情カラ考ヘルト金ノ流出ハ左程恐ル、コトハナイト思ハレルノデアルガ只萬一ノ場合ヲ豫想シタ採算カラ或ハ惡宣傳ニ脅サレタ不安カラ金ガ流出スルノガ眞ニ好マシカラヌコトデアツテ其ノ一般人心ニ及ボス影響等ヲ考ヘルト頗ル憂フベキコトデ此ノコトサヘナカツタナラバ日本ノ財界ハ蓋シ世界デ一番安全ト云ヘルカモ知レヌ而シテ既ニ輸入資金其ノ他對外支拂上必要ナ手當ハ整ヘラレテ居ルコトデアルカラ單ニ不安カラ來ル金ノ流出サヘ止マレバ何等ノ心配ハ無クナル譯デアル此ノ我財界ノ實体ヲ地方ノ人々ニ能ク徹底セシムル必要ガアルト思フカラ此ノ點ハ適當ノ機會ニ

一 般ニ知ラシメテ置クトヨイト思フ。

前申述べタ様ニ英國ノ金本位制停止以來正金銀行ノ弗ノ賣持ハ相當多額ニ上ツテルノデアアルガ此ノ内カラハ解合等デ差引カレルモノガアルカモ知レヌケレドモ兎ニ角正金銀行ハ之ニ對シテ手當ヲシナケレバナラヌ斯カル關係カラ來月、來々月ト金ノ現送ガ行ハル、コト、ナラバ金融ハ自然硬化セザルヲ得ナイ、此ノ間ニ處シテ政府モ日本銀行モ急激ナル金融ノ硬化ヲ避ケル様努力スル積リデアアルガ餘リ年末ニ差シ迫ツテゴトゴト又セヌ様ニ手當ヲ要スベキ向ハ前以テ準備ヲ爲シ置ク様注意スルコトガ望マシイ而シテ融通ハ成ル可ク短期ノモノニ限り長期ノ融通ハ避ケル様ニシタイト思フ。

最近ノ實情並ニ年末金融ノ對策等ニ付テ述べタイコトハ大体以上ノ通りデアアルガ各位ニ於テハ以上述べタ趣旨ヲ體シテ善處セラル、様ニ希望スル次第デアアル。

昭和六年 十月 本支店事務協議會參考資料

(十月十三日調)

一、世界財界の動搖……………	一頁
一、本邦財界の大勢……………	六
一、外貨債の貸付……………	一二
一、爲替賣却と正貨現送……………	一五
一、本行利上……………	一九

世界財界の動搖

最近世界の財界は英國の金本位制停止を動機として根柢から動搖を來したが、我國としては之と殆んど時を同うして勃發した日支軍隊の衝突に依て兩國の葛藤を擴大し之が爲めに支那に於ける排日運動を激化せしめ磅價の崩壞に基く世界的大瀾文の影響を一層深刻ならしめた次第である絶大の信用を置かれたる磅價の失墜が世界經濟界に與へたる衝動の激甚であつたことは當然にて、巴里及び紐育の兩取引所を除き地元の倫敦株式取引所は勿論世界の主なる諸國の株式取引所は混亂を懼れて休業するの止むなきに至り、其後諸國の中央銀行は相次いで金利を引上げ、最近には紐育準備銀行及び佛蘭西銀行まで公定歩合の引上を行ふたが更に「スカンヂナヴィア」諸國は英國に倣ふて金本位の停止を行ふた。世界の多く

の國は曩に獨逸の破綻に因り多額の資金を固定せしめたる上に、今又英國の金本位制停止と爲替管理に因り巨額の資金を凝結し、殊に世界經濟の不況回復に最も大なる役割を演ずべき米國が此兩國に多くの資金を固定するに至つた結果米國自體に於ける困難に打克つべく大統領主唱の下に諸種の對策施設を講じて居る。斯くて國際間の經濟的信用は甚しく低下し、經濟的協調の精神は傷けられたのであるが、此失はれたる借用を回復する爲めには諸國の財政經濟の建直しと共に政治上の不安除去を必須條件とし、速急なる回復は望み難いと思はれる。

各國中央銀行の公定歩合引上（九月二十一日以後）

國名	舊利率	新利率	變更月日
英國	四・五%	六・〇%	九月二一日
瑞典	四・〇%	五・〇%	九月二一日
印度	七・〇%	八・〇%	九月二二
チエツ	五・〇%	六・五%	九月二二
諾威	五・〇%	六・〇%	九月二五
希臘	九・〇%	一二・〇%	九月二六
意大利	四・五%	六・〇%	九月二八
伊太	二・五%	三・〇%	九月二九
愛蘭	五・五%	六・五%	九月二九
ブルガリ	八・五%	九・五%	九月二九
芬蘭	六・六%	七・五%	九月二九
波蘭	六・六%	七・五%	九月二九
リトアニア	七・〇%	八・〇%	九月二九
日本	五・一%	五・八%	九月二九
米國	一・〇%	二・二%	九月二九
佛蘭西	二・〇%	二・五%	九月二九

備考

九月廿五日 六分
 廿八日 八分
 十月八日 七分
 二變更

九月廿八日 八分
 十月七日 七分
 二變更

十月十一日 九分 二變更

金本位制停止國（九月二十一日以後）

英國 英蘭銀行金賣却停止（九月二十一日）

印度 ルービー貨を磅又は金と兌換する義務停止の旨九月二十一日印度財務長官聲明

丁抹 九月二十二日金輸出禁止令發布十一月三十日迄兌換停止

瑞典 九月二十七日より十一月三十日迄金本位制停止

諾威 金本位制撤廢、金輸出禁止（九月二十七日）

埃及 九月二十七日（八日？）金本位制停止

埃太利 國立銀行に外國爲替取引の獨占權を許可す（十月八日）

北部ローデシア 十月十二日より金本位制停止

芬蘭 同日金本位制停止

主要國間爲替相場及び銀塊相場（九月十九日以後）

九月十九日

最近

米	英	佛	獨	英	日	米	米	對
四・佛八五	一二三・法九七	一二三・法九七	二〇・麻五二½	二〇・志½片	四九・佛三八	四九・佛三八	三・仙九二	一六一・兩〇〇
三・佛九〇¼	九七・½	九七・½	一六・½	二・五½	四九・三八	四九・三八	三・九四½	一四四・〇〇
（十月十日）	（'）	（'）	（'）	（十月十二日）	（十月十日）	（十月十日）	（'）	（十月十二日）
倫教	紐育							
一二・片½	二七・仙¼							
一七・½	三〇・½							
（十月十二日）	（'）							

本邦財界の大勢

我財界は勿論不景氣を續けて來たのであるが貿易額は減少の裡にも貿易
尻は八月までの處全國分入超一億二千萬圓となり昨年同期間の入超二億
五千萬圓に比し一億三千萬圓を減縮して顯著なる改善を示し、又事業界
に於ても綿業を中心として漸次採算有利に向へるものあり且つ引續ける
金融緩慢の爲め國價を初めとして株價の如きも著しく騰貴に向ひ孰れか
と曰へば歐米の多くの國の悪化に較べて消極的ながらも寧ろ健全なる經
過を辿り、一時屏息状態にあつた起債市場の如きも一流物の發行成談を
觀るやうになつて居た。夫れが海外事情の急變を受けて俄に挫折惡化し
支那又は印度を輸出先とする綿業關係品及び人絹類に於て打撃は最も甚
しかつた。然しながら他方國際的商品には餘り著しい變動がなかつたの

は蓋し此度の世界財界動向は所謂金融恐慌とも謂ふべきものであるから
であらう。

纖維關係商品相場

	九月中旬	十月十二日	低落率
綿糸 (二十手)	一一一〇〇	一〇〇〇〇	一〇・〇
絹紡糸 (白 鐘)	三四〇〇〇	二八五〇〇	一六・一
人絹糸 (百二十デニール)	一〇六〇〇	八七〇〇	二七・三
生糸	五八〇〇〇	五五〇〇〇	五・一
毛糸	一、四五	一、四〇	一

國際商品相場

品名	九月十九日頃	近
棉花	六・仙二五	五・仙九五 (十月十日)
小麦	四八・仙 $\frac{1}{4}$	五〇・仙 $\frac{1}{2}$ ()
生絲	五八〇・圓〇〇	五五〇・圓〇〇 (十月十二日)
銅	七・仙〇〇	七・仙〇〇 (十月九日)
鐵	三・磅一八 ^六 / _片	五・磅〇〇 ^六 / _片 (十月一日)
ゴム	二・片 $\frac{1}{2}$	三・片 (十月十日)
砂糖	七・盾 $\frac{1}{2}$	七・盾 $\frac{1}{2}$ ()

次に有價證券も國債株式の別なく一齊に急落するに至つたが外貨邦債も亦低落した。但し五分半利英貨公債は弗に對する確定換算率ある爲め倫敦相場は却て著しく騰貴して居る。

株式

六年七月上旬高値

九月十九日

十月十二日

五年十月安値

新東	一四八、七〇	一二〇、五〇	一〇〇、七〇	九八、一〇
鐘紡	二〇六、八〇	一八七、三〇	一四九、八〇	一二九、二〇
郵船	四一、三〇	四〇、六〇	三三、九〇	二三、六〇
濃糖	七八、九〇	六五、四〇	六二、七〇	四六、〇〇
王子紙	七九、四〇	六一、五〇	五八、一〇	五五、七〇

國債

六年七月上旬高値

九月十九日

十月十二日利廻

五年十月安値

甲號五分利	九八、四五	九二、二〇	八八、三五	(六〇七)	八六、九五
第三五分利	九七、一五	九一、六五	八七、四五	(六〇)	八五、九〇
一回四分利	八四、五〇	七七、八〇	七三、九〇	(六三四)	七五、五〇
五分半米貨債		九二、 $\frac{1}{2}$	八九、 $\frac{1}{8}$	(六四五)	九三、 $\frac{1}{2}$
六分半		一〇二、 $\frac{1}{2}$	九九、 $\frac{1}{8}$	(六五二)	一〇五、 $\frac{1}{2}$
五分半英貨債		九七、 $\frac{1}{2}$	一〇三、 $\frac{1}{8}$	(五四一)	
六分		一〇〇、〇	八七、 $\frac{1}{2}$	(七四八)	九

因に米國物及び英國物の二三を掲記すると次の如く株式の下落に反し公
 價は保合状態にある。

	六年七月	九月十九日	十月十二日
スチール株	一〇五・〇〇	七五・ $\frac{1}{2}$	七〇・ $\frac{1}{2}$
産業株三十種	一五五・二六	一一一・七四	一〇五・六一
鐵道株二十種	八六・一三	五三・〇八	五七・四三
三% $\frac{1}{2}$ 自由公債	一〇二・	一〇二・	一〇一・ (十月七日)
コンソル公債	六〇・ $\frac{1}{2}$	五七・ $\frac{1}{2}$ (九月 十七日)	五五・ $\frac{1}{2}$ ()
英國五%軍事公債	一〇三・ $\frac{1}{10}$	九七・ $\frac{1}{2}$	九七・〇

尙ほ貿易上に於ては磅價の低落不安と爲替取組不能に陥りし爲め一時荷
 積の悶着を生じ又商談杜絶の状態に陥りしが昨今漸く新規成約を見るや

うになつた。然し今後綿葉品の如きは英國品との競争加はる上に支那大洪水の外に日貨排斥は逐日激化し既に上海及び厦門へは全く積出不能の狀態にて此等の結果は未だ貿易表に現はれるに至らぬけれども相當の惡影響は免れ難かるべく、加ふるに貿易外受取勘定の重きをなす海運收入は英國船等の壓迫と磅建に依る邦貨額の減收の爲め之亦可なりの減少を招來するものと觀られる。

外貨債の買付

本年上半期に於て内國債の相場騰貴の爲め利廻採算から外貨債に放棄することは依然行はれたけれども、其額は大藏省の調査に據ると次の如くで未だ著しく多額ではなかつた。

本邦外貨債及び外國證券所有高（預金部及び日銀を除く）

	昭和五年末	六年六月末	五年末ニ比シ増減
銀行（正金ヲ除ク）	二三八、六四〇 <small>千圓</small>	二七五、八一八 <small>千圓</small>	(+) 三七、一七八 <small>千圓</small>
信託會社	三五、二四〇	四四、七〇二	(+) 九、四六二
保險會社	一〇〇、二九〇	一〇〇、二六四	(-) 二六
其他	四二、六八四	四三、九五一	(+) 一、二六七
計	四一六、八五四	四六四、七三五	(+) 四七、八八一
正金銀行	一七七、一六八	一四八、五一五	(-) 二八、六五三
總計	五九四、〇二二	六一三、二五〇	(+) 一九、二二八

即ち正金を除きたる銀行、信託、保険、其他を合して大約四千七百萬圓にて其内銀行だけにて三千七百萬圓を占めたが正金銀行に就て見れば二千八百萬圓を減少して居る。

更に本年六月末に於ける前掲各機關の所有高合計六億千三百萬圓の中英貨を以て表示せられたるものは其の四割三分に相當する二億六千三百萬圓となつて居り、所有高は下の通りである。

銀行會社所有英貨證券（六年六月末）

銀行(正金を含む)	二〇二、四〇六	千圓
信託會社	九六六二	
保險會社	三九三二〇	
其他	一二、四二六	
計	二六三、八一六	

而して下期の七、八兩月に於て特別銀行は四百二十五萬圓を減少したに反して、普通銀行は四千三百七十五萬圓の激増を告げ、而かも其の大部分は磅證券である。正金銀行が七八月に亘つて五千萬圓の現送を要したのは獨逸恐慌に因る外國資金の引揚も多少の關係はあらうけれども右の如く我國銀行の證券放資に基く外貨需要は大なる原因をなして居ると看られる。斯の如く我國よりの英貨證券放資高は相當巨額であり、其上に倫敦市場に相當資金を置いてあつた模様だから英貨の低落に依て生ずる損失は可なりの額に達するものと察せられる。

爲替賣却と正貨現送

本年上半期中に於ける内地正貨の受入四千三百萬圓なるに對し、拂出千七百萬圓で差引二千五百餘萬圓の受入超過となつて居る。而して下期の七、八、九の三ヶ月間に於ける受入千八百萬圓に對し、拂出五千百萬圓で差引三千三百萬圓の拂出超過となり、此拂出超過は貿易關係よりも寧ろ海外放資に由來するものと思はれる。

然る處英國の金本位制停止は各國をして相互に疑心暗鬼の念を起さしめ紐育に於ては一時對日爲替四十八弗二分の一まで下つたこともあつたが我國市場に於ても圓賣弗買熾烈を極め此間正金銀行は飽くまで四十九弗八分の三の建値を以て統制賣を敢行した。弗資金を買ふ者の中には倫敦に資金が固定したから已むを得ず日本から米國に直送せねばならぬ羽目に

立到つたと辯解がましく言ふて居るけれども、必ずしも右の如き事情より生したるもの計りでなく、當面の必要以外に思惑的な買進みが含まれて居る部分も相當あると思はれる。夫れは即ち正金の賣爲替は期近物よりも先物の方が遙かに多額であることから推しても想察し得られるのであるが差當り此賣爲替決済の資金として過日審査部主事から通知した如く正金銀行では本月三日、八日に各千五百萬圓を現送したが尙引續き今月中に合計七千五百萬圓の現送をする豫定になつて居る。英國が金本位制を停止した翌日丁抹は金の輸出を禁止し、次で瑞典及諾威も金本位制を停止したが倫敦及び歐洲大陸に於て日本も金の輸出を禁止するかも知れぬとの浮説が立ち、又國際決済銀行から直接倫敦監督役へ照會あつたと曰ふので監督役から電報して來たが政府當局及び本行に於て左様なこ

とは何等問題として居らず、又正金銀行も外貨爲替を自由に賣應して居る旨を右國際決済銀行及び適當と思はれる向へ言明するやう倫敦及び紐育監督役へ電命した次第であるが、恰も此當時佛國、白耳義及び瑞西の金本位離脱説も傳へられたるに對して各中央銀行總裁は否定的の聲明をした。

來年上期の貿易入超尻は幾何となるか、又貿易外の收支状態は如何推移するか、乃至夫等が我國の正貨に如何に響くかは豫見し難いが、來年中に償還期限の來る左記外債の始末に付ても大に考慮すべき問題となる。

日本電力會社借入金	九〇〇千磅	六年一月末
東邦電力米貨債	一、四五〇千磅	七月一日
第一回滿鐵英貨社債	四〇〇〇千磅	七月廿三日
第三回 同上	二、〇〇〇千磅	
政府承繼		

内地正貨増減 (單位千圓)

受入	減出												受又ハ拂(△)超過		
	五年中計	六年一月	二月	三月	四月	五月	六月	上半期中計	七月	八月	九月	下期三月分中計		六年九月分中計	
七〇三一四	三一六五七〇	△二四六二五六	七〇八〇四	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇
三〇八〇四	一五九八	△六二〇六	六八二二三	三〇四七二	一〇〇二九	八三八〇	六九七三	四三〇四	五七五〇	八四一九	四〇一六	一八一八五	六一六六九	△七六六八	△三三三九〇

※ 六年の九ヶ月間に於ける拂出六九三三七千圓中正金五〇〇〇千圓、和蘭六九五〇千圓、蘭印商業八二〇〇千圓なり

本行利率上

本行は去る五日公定歩合を二厘方引上げて翌六日から實施した。上半期中大體緩慢状態を以て推移せる金融界は七八月に至つて意外ノ引締を呈し、短期資金は窮屈となり「レート」も亦著しく昂騰した。之は貯蓄銀行預金の預金部預入れ、納税關係、大藏省證券の新規募集等に依り民間資金の國庫への移動増加した國內的事情の外、獨逸の金融恐慌以來外國資金の引揚及び本邦側よりの外貨證券への放資殊に此證券への放資は倫敦市場に於ける金利昂騰に伴ひ公債相場の下落せるに乗して同國證券を買入れたる額相當多かつた爲めに外貨資金の需要増加し其の結果として正金銀行が正貨現送を行ふた等國外關係の影響する所も可なり大きかつたのであるが、九月に入つてからは政府資金の解放もあり又季節資金の

2
同歸もあつて再び引弛みの傾向にあつた處、偶々英國の金本位制停止に
因り此の情勢は一變して市場を警戒態度に出でしめたのみならず、前に
申した如き経緯を以て相當多額の現送を必要とするに至つたのである。
從て此の形勢と年末に向つての金融界は當然緊縮を招來することは豫見
せられ、又一面に於て正金銀行より買入れたる爲替の決済資金は從來の
如き安い「コスト」で調達出來ぬ次第であるから、此等の意味合を世間
に警告し前以て十分の用意を爲さしむる考で右利上げを決行した所以で
ある。世上では本月一日の津島財務官の送別午餐會の節日銀總裁は列席
の銀行家に對して今後金融の急激なる引締を來すことのないやう勸奨協
力を求めたに拘らず日銀自ら卒先して利上げをしたことは不可解だと言
ふ批評もあつたやうだが本行としては此金融の引締るべき秋に當り金融

業者は急激なる回収をなし或は正常の貸出に對して之を拒否するが如き態度に出で、之が爲め金融を過當に引締めるやうにならぬことを希望したのである。又中には市中金利は未だ格別の變化がないのに日銀が利上げをすることは尙早だと言ふのもあつたやうだが此の場合産業上低金利の必要もさることながら金本位制の維持從て又正貨擁護の任に當れる本行として内外の情勢から當然の定石を打つたまでのことである。

第二日 (火曜日)

十月二十日 午後二時十分開會

副總裁、理事、支店長(宗像福島支店長、小林秋田支店長欠席) 部局長、
秘書役、検査役、調査役出席

深井副總裁

昨日武井サンノオ話ノ有ツタ兌換停止ノ法令ノコトハ一寸

記憶ノ儘ヲ申シタガ違ツテ居タ點ガ有ルノデ訂正シマス

是レハ雜誌ニモ出テ居タコトデ別段特種^ダデハナイガ、昨日

讀ンデ見タ所ヲ御便宜ノ爲御話シマス、法令第三條ハ三項

目ヨリ成リ第一ハ一定ノ相場デ英蘭銀行ガ金ヲ賣ル義務ヲ

負ツテ居タガ其ノ義務ヲ今後特別ノ事アル迄ハ免セラレル

コト、第二ハ堀越サンノ申シタノモ違ツテ居タカ法令ハ二

十一日カラト云フノデアルガ、實際ハ十八日カラ停止シテ

居ルノデ其ノ義務ヲ實行シナカツタ、即チ法令デ義務ヲ免

武井小樽支店長

ゼラル、外ニ既ニ行ツテ居タコトヲ法律ガ追認シタ形ニナ
ツタ、第三ハ兌換ノ停止ヨリ起ル時局ニ必要ナコトヲスル
爲大藏省令ヲ以テスルコトガ出來ルコト所謂委託權限ヲ與
ヘタモノデ其ノ期間ハ六ヶ月ト云フコトニナツテ居ル、ソ
レデ爲替管理ノコトハ大藏省令デ出テ居ル
岡本君ニモ聞イタガヨク判リマセンデシタ

深井副總裁

クロニクルニ全文ガ出テ居ル

堀越理事

未ダ何カ御判リニナラヌコトハ有リマセンカ

武井小樽支店長

私ハ立ツ時最後ノ**ナンバー**迄見テ來マシタガソノ分ハ多分

小樽ニハ着カナカツタノデセウ

君島岡山支店長

支店ヘノ通知ガ遅レルノハ何トカ方法ハ有リマセンカ、今

度ノ利上ヲ聞クノモ外カラデ最初新聞社カラ知り夫レカラ

ラデオデ聞キマシタ

清水理事

新聞ニハ勝ツコトハ出來ヌサ

君島岡山支店長

宿命的ニ駄目デスカ

堀越理事

餘程早クヤレハ別ダガ新聞ノ報道ハ餘程發達シテ居ルノデ

コチラノ電報ハ遅レテ着クコトニナル

深井副總裁

コウ云フコトハドウナリマス、暗號デヤレバ短イカラスグ

出來ル、新聞記者ニ發表スル前ニ電報ガ打テル譯ダガ、秘

書役ソレハドウナツテマス

井倉秘書役

大藏大臣ノ認可ガ有レバ直グニ出セル様ニ手筈ヲシテ居リ

マス

深井副總裁

電話デ新聞記者ニ言ツテヤレバ集ル迄ニ三、四十分ハ掛、

ルカラ、電報ハ少クトモソレヨリ早ク局ヘ持込メル譯テス

ナ

井倉秘書役

實際認可ガ有レバ即座ニ局ヘ持ツテ行ツテマス

深井副總裁

ドウシテソレデ遅クナルカネ

清水理事

種々電報ガ輻湊シテ居ルシ、事實ソウナツテルノデソシナ

君島岡山支店長

事デ文句ヲ言ツテモ仕様ガナイ、新聞ニハ勝テル筈ガナイ
大阪迄電話デ夫レカラ電報デ打ツテ貰ヘバ早クナルト思フ

岡田神戸支店長

同ジ電信デモ遅速ガ有リマス

深井副總裁

夫レデハ電信局ノ扱デ別ニ宿命デハナイ

堀越理事

新潟ハドウデシタ

金子新潟支店長

ラヂオガ先キデシタ

勝田熊本支店長

私ノ方デハラヂオヨリ先ニ新聞社カラ聞キマシタ

中根大阪支店長

大阪デ中繼ヲスルノモヤツテ見ネバ分ラヌ

君島岡山支店長

山一證券ハ新聞ヨリハ遅イガ早ク知ツテ居マス

堀越理事

ア、云フ所ハ何かコルレスガ有リ特種ガ有レバ直グ知ラセ

深井副總裁

ル仕組ニナツテ居ル
電話デモ直通ガ有レバ格別大阪デ接受スルノモ遅カラウ、

直通以外ハ豫メ準備ヲシテ置イテ認可アリ次第電報スルノ
ガ一番早カラウ、ブローカーナドハ土地ノ新聞ト連絡ヲ取

清水理事

ツテ居ルカラ早イノダ
ソレハ決定シタラ直グ秘書室カラ電報ヲ打ツコトニスルヨ
リ外仕方ガナイ

堀越理事

夫レカラ御参考迄ニ申上マスガ、昨日總裁カラ正金ノ金ノ
現送高ニ付テモ御話ガ有リマシタガ其ノ後正金デ確定シタ
分丈申上ルト、最初ハ四、五回行ル筈ダツタノガ既ニ五回
目ノ現送ガ十九日ニ濟ミ、アト四回今月中ニ現送スルコト
ニナリ結局今月ハ九回ニナリマシタ、アトノ分ハコノ二十
一日ニ神戸カラ、二十二日ニ横濱カラ、二十六日ニ神戸カ
ラ、二十七日ニ横濱カラ積出シマス、何レモ同ジ金額デ七
百五十萬弗デス

夫レカラ尙米國カラ金ノ出ル話ガ有リマシタガ最近監督役
カラノ報告ニ依ルト、英國ノ金本位停止以來金ノ出タ高ハ
本月ノ十九日迄合計デ三億七百四十五萬四千弗デ其ノ内譯

中根大阪支店長

堀越理事

ハ佛國へ二億五千四十六萬七千弗、和蘭へ三千五十九萬千弗、瑞典へ千三百四十九萬二千弗、白耳義へ八百五十八萬三千弗其ノ他ノ諸國へ四百三十二萬千弗テ約八〇%ガ佛國へ積出サレタ譯デス、最初ハ佛蘭西銀行ガ大部分デアツタガ最近ハ民間銀行ニモ有ルラシイ、佛國デハ矢張(米國ノ金貨ヲ**コ**ールスル者ガ相當出テ來タ、米國ニモ近頃ソノ傾向ガ殖エ八億位有ル

米國ノハ金デハナイノヂヤナイカ

佛國ノハ金デス、米國ノハ金カ何カ分ラヌ

金本位停止以來十六日現在ノ準備金**レザ**ー**ブ**ノ**ト**ハ三億一千六百萬弗デ、米國モ前カラ低金利政策ト同時ニ通貨ノ膨張ヲヤツテ居タガ效ヲ奏セズ、金ノ流出ノ爲遂ニ低金利政策ヲ止メ金利ヲ上ゲタ、然シ通貨ノ膨脹ハ矢張アルラシク、不景氣ニナツテモ多イ、**レザ**ー**ブ**バンクノ割引手形ハ

金子新潟支店長

増加シテ三億六千四百萬弗ヲ買入手形ハ三億一千七百萬弗有リマス、マアソシナ事デス

之カラ地方ノ模様ノ御話ヲ伺ヒ度イ、マア一番先ニ米ノ出來高昨年トノ比較ヤ繭ノ値段ト産額等農民ノ狀態及農村窮乏ノ變化ノ狀況等ニ付テ大体ノ觀側ガ承リ度イ、米ノ多イ所ハ新潟デスカ、ドウデスカ

新潟ハ昨年大豐作デ三百六十六萬石取レ十月頃其ノ處置ニ困ツテ居タ所、米價暴落シ、新潟ハ三等米ガ標準デスガ平均正米十四圓デ、先物ハ十二圓五十錢ト下落シ、米ノ出盛時ニ專ラ政府ノ買上ヲ迫リシモ縣ノ米ハ軟質米ノ爲買上ニ合格スルモノ少ク、新米ハ食ベルニハ良イガ永ク保存スルノニ困ルノデ古米ヲ成ルベク買フ方針ダカラ三十萬俵ヨリ買上ヲシナイノデ一時農村ノ倉庫ハ充満シマシタ、然シ十一月ヨリ十二月ニ掛ケテ値段ガ出タノデ矢張り安イ乍ラ其

ノ時ヲ見計ツテ賣出シタノデ、昨年ノ收穫高三百六十五萬石ノ内縣内消費ガ二百萬石ダカラ結局百六十萬石位移出スレバ可イト思フテ居マシタガ丁度百六十二萬石ト豫想通ノ成績ヲ收メタノデ餘リ手持ハ多クナク昨今ノ縣下ノ生産者ノ手持ハ四十萬石ヨリナイ、其ノ他政府ノ買上モアリ結局九月一日現在デ七十萬石、一ヶ月二十萬石ノ消費トスレハ現在五十萬石ノ手持ニナル譯デ多クハ有リマセン、デスカラ現在高カラ見レバ心配ハアリマセン

今年ノ米ハ三百二十九萬石ノ豫想デ昨年ヨリ一割少ク平年作ヨリハ一寸多イコトニナリ、現物相場ハ三等米十六圓五十錢見當デ昨年ニ比シ先ヅ二圓五十錢位高イカラ米ヲ持ツ者デ云ヘバ、有力ナル地主ガ持ツテ居ルノデ昨年ノ米ガ減ツテル爲却ツテ喜ンデ居マス、小作米ハ地主ガ四分、小作人ガ六分取ルノデ數量デ決ルカラ地主ハ割合困ラヌト云ツ

堀越理事

金子新潟支店長

テマス、豊作デ値ガ下ルヨリハ可イ譯デス、然シ小作ハ昨年ヨリ數量ガ減ジタ丈困ルト云ヒマス、然シ相場ハ平均シテ昨年ヨリヨク、生産費カラ考ヘ、其ノ點デハ昨年ヨリヨイカラ先ヅ大シタコトハナイト思フ、但シ小作爭議ハ相當アルラシク收入減ノ爲小作料ノ減免ノ申合ヲシタリシテ居ル、ドウモ煽動者ガ入ツテル様子デス、結局ソंनाコトヲヤツテモ小作ノ利益ニハナリマセン

米ニ對スル金融モ米ヲ持ツテル者ハ地主ダカラ充分持チコタヘルコト、思ハレマス

結局昨年ヨリヨイ方ニ向イテ居ルノデスカ

今申上ゲタ様ニ年々人口ニ比シ生産ガ多イカラ移出ガ百五十萬石、石二十圓ト見テ三千萬圓、新潟ノ預金ノ増加千萬圓、昨年ハ殖エルベキガ殖エナカツタ、昨年縣下ノ預金ハ全体デ一億六千幾何カデソレニ二百五十萬圓ヨリ殖エヌ、

堀越 理事

中山松本支店長

所ガ九月迄ノ計數ヲトレバ昨年ヨリ本年ノ方ガ二百萬圓多
イ、昨年ヨリ今年ハ全國的ニ收穫ガ減ツテ居ルカラ賣レル
ダラウ、ソシテ預金ハ例年九、十、十一、十二月ガ殖エル
時期デ昨年ハ此ノ期間四百萬圓殖エタ、ソシテ一年間差引
二百五十萬圓殖エタガ、今年モ之レカラ年末迄四百萬圓殖
エルコトハ考ヘラレル

中山サン繭ノ方ノ農村ノ状態ハドウデス
相變ラズ苦シクナル一方デス、コノ前申上タ通り繭ハ產物
ノ七〇%ヲ占メテ居リ昨年ノ出來高カラ申上ルト、昨年ハ
前年ニ比シ殖エタ、價格ハ暴落ノ爲三千三百萬圓デ五割五分
減ト云フ著シイ金額ノ減少ヲ來シタ、今年ノ繭モ畧々濟ミ
マシタガ、數量ハ昨年ニ比シ三割減ツタガ價格ハ少シ宜シ
イ、金額ハ三千二百萬圓位ニナル即チ三分三厘位減ツタコ
トニナルカラ今年ノ繭ハ有利ダトハ云ヒ得マス、ソレニ生

産費モ肥料ハ金肥ヲ使ハズ養家ノ生活費モ切詰メテ一家舉ツテ働イテ居ルノデ、生産費ハ割合安ク付キ一戸當リ金^{カネ}ノ收入ハヨイ様デス、之レハ無論勞働賃銀ヲ度外視シテ見タノデアアルガ今年ハ一戸當リ約七十四圓見當ノ受ケニナリ昨年ハ四圓デシタ、即チ勞働賃銀ヲ度外視スレバ現金收入ガ殖エタコトニナリマス、殊ニ今年ハ優良製糸家が主ニ現金買入ヲシタノデ一尤モ伸ニハ延^{ノベ}ノモアリマスガ一現金收入ガ殖エテ居マス、從テ今年ノ養蠶期丈ノ經濟デハ餘ツタ勘定ニナリマス、然シ他ノ收入ハ極メテ貧弱デ後ハ喰込ニナルノデ彼此スレバ借錢モ出來相變ラズ苦シイ状態デス、次ニ女工ノ賃銀ニ付テ見テモ昭和四年ハ百五十圓ノモノガ、五年ニハ百九圓、今年ハ七十圓乃至八十圓位ニナリマシタノミナラズ米モ百三十萬石位ハ穫レマスガ六十萬石位ハ喰フカラ大シタモノデナク、今年ノ三月カラ九月ニ至ル期間

ノ現金收支ハ農會調ニ據ルト收入ハ自作ト小作ト平均シテ二百五十三圓デ、支出ハ二百三十八圓差引残りハ十五圓ト云フノガ中位ノ農家ノ統計デ絶對トハ申セマセンガ比較的正確デセウ、ソレダカラ衣食費ヲ加ヘテ云ヘバ負債ガ殖エ預金ハ減少シテ喰込一方デ、二萬口ノ無盡九百萬圓モ半分ハ取レヌ始末デ商家ノ代金支拂ハ順繰リニモラトリアムヲシテ居リ、又勸銀ノ延滞ハ大体總貸出ノ三分位ガ平均ダト聞イテ居マスガ長野縣下デハ七分位平均シテ延滞ニナツテ居ル模様デ、縣稅ノ一割近クガ滞納ニナツテ居ル狀態デス縣下ニハ農家ガ約二十萬戸デ二億圓ノ負債ガ有リマスカラ一戸當リ千圓位負債ガアル勘定デ一方預金モ有リマスガ餘程苦シイ狀態ニ有リハセヌカト思ヒマス、ソシテ借錢中ノ低利資金ハ勸銀カラ千二百萬圓、地方信用組合聯合會カラ六百六十萬圓デ合計約千八百萬圓位有リマス、外ニ農山漁

堀越理事

中山松本支店長

村ノ低利分ガ四百六十三萬圓合計二千三百萬餘圓出テ居マ
スガ二億圓ニ對スル一割位ノモノデ、其ノ他ハ相當高利ノ
金ヲ借りテ居ル譯デ可成リ苦シイコトデス、從テ今農家デ
ハ救濟ノ問題ニ付テハ何カ施設ガ行ハレルトノ確信ノ下ニ
過ゴシテ居リ、特殊ノ正直者ガ勸銀へ返濟スル位デ大多勢
ハ金ヲ持込ムモノハナイ状態デス、ソシテ例ノ平價切下ヲ
決裁ヲ以テ要求スルト云フ有様デ堂々トヤツテ居リ、誠ニ
事態ハ面白クハナイガサレバト云ツテ口デ云フ程デモナイ
ラシク、氣分ハ比較的樂デ唯一時的ニヤツテ居ルト見受ケ
ラレル點モ有リマス

農家ノ状態ハザツト申上ルト右ノ様ナモノデス
納稅ヤ無盡ノ模様其ノ他昨年トドンナ風デスカ、好イノデ
スカ、ヨリヒドイノデスカ

幾何級數的ニ惡イノデス

堀越理事

農家ノ一戸當リ收益ガ昨年ハ四圓ナノガ今年十五圓ナラバ
良イノデハナイノカ

中山松本支店長

農家ノ懐勘定ハ殖エタガ今迄窮屈ナ生活ヲシテ來イ、手合
丈ケガ十五圓ノ收入シカナイノデス、農家ハボケツトマネ
ーガ殖エタノデ餘程イ、譯デス、蕪市場デモ今年ハライス
カレーガ相當賣レタ相デス

堀越理事

ソウスルト幾何級數的ニ悪イト云フノハドウモ分ラナイ
低利ノ片ハ付イタカ

中山松本支店長

一部分デヤツタ位デ未ダ借換ハ出來ズ縣デハ骨ヲ折ツテ居
マスガ仲々出來マセン、二千萬圓ノ低利ハ別トシテ借替ハ
出來テ居マセン、小口ガ出來タノミデス

清水理事

滯納ハ前年カ今年カ

中山松本支店長

申遅レマシタガ先年度ノコトデス

堀越理事

平價切下ノ決議ハ實際ヤツタノカ、地方ハ何處デス

中山松本支店長

農村救済秀吹會ト云フノガヤリマシタ

清水 理事 事

ソレハドコニ在ルカ

中山松本支店長

佐久デス

清水 理事 事

申合ヲ縣廳ヘモ持出スカ、日銀ヘモ持込ミ相カ

中山松本支店長

ソコ迄ハ行カヌガ宣傳機關デス、銀行ヘハ持ツテ來マセン

堀越 理事 事

阿部サンノ方ニハ米ト繭トガ平均シテ有リマスカラニツヒ

ツクルメタ御觀測ヲ願ヒマス

阿部名古屋支店長

繭ハ高イカラ唯ヨイト喜ンデ居マス、米ハ變ツタコトハ聞

キマセン、織物ハ綿織物が主デスガコレハ輸出ガ二千萬圓

名古屋ガ四割以上デ上半期迄ニハ金額ガ二割減ツテ居マス

ガ數量ハ減ツテ居マセン、近來一層惡イ相デス

永池 理事 事

支那ノ關係ハドウカ

阿部名古屋支店長

小巾物ハ殊ニ惡イガ廣巾物ハ賣行ク様デス、小巾ノ内資力

ノ無イ者ハ止メタリスルモノガ有リ、問屋ノ大キイノガ二

堀越理事

阿部名古屋支店長

軒破綻シマシタ、其ノ關係デ問屋ノ手形ガ減ツタノト思惑ガ減ジタノトデ却ツテヨカツタトモ云ハレル、然シ總ジテ春ヨリ悪イヤウデス、然シ帽子ヤ樂器類ハ順調デス、又毛織物ハヨイ様デス、洋服地ノ範圍ガ廣マリマシタカラデス唯毛糸ノ先約一萬俵（二俵二十圓位）トストツクノ二百五十萬圓ガ問題トナツテ居マスガ近ク解決シ相デス、陶磁器ハ織物ヨリ尙悪イ、輸出ノ三割近ク即千四百萬圓ヲ占メテ居タガ今年最近二割五分近ク金額ガ下リ米國向ハ半減シタ歐洲向ハ以前ハ少ナカツタガ逆ニ米國向ガ著減シタ爲歐洲向ノ方ガ却ツテ米國向ヨリ多クナツタ

値ハ下ゲヌカ

瀬戸ニハ弗々破綻スルノガ有リマス、森村ハ統制ガ出來減産ヲヤツテ居マス

稅ハ國稅ヨリ知リマセンガ愛知縣ハ總額ハ減ツテ居リマス

ガ殖エテルノハ織物消費税デス、滞納ノ率ハ昨年ヨリ悪ク
ナク岐阜縣、三重縣ハ幾分悪イガ愛知縣ハ却ツテヨクナツ
テ居マス

堀越理事

名古屋ハイツモ悲觀的ノコトハナイ様デスナ

阿部名古屋支店長

然シ金融ハ岐阜方面ニゴダゴダガ有リマス

堀越理事

夫レカラ船ガ非常ニ悪イト云ハレマスガ岡田サン神戸ノ船
ノ御話ヲシテ下サイ

岡田神戸支店長

船ハ悪イト騒イデ居マスガ從來ドノ位運賃ガ入ルカ判ツテ
居ラヌガマア五千萬圓位トシテソノ一割位ハ減ツテ居リマ
ス

堀越理事

磅建ノモノ丈ケハ上ゲル譯ニハイカヌカ

岡田神戸支店長

或者ハ上ゲルト相談シカ、ツタガ結局ハイクラカ上ルコト
ニナツテ居タノデハナイカト思ヒマス、夫レカラ傭船ハ契
約ノ解除ガ有ルノデ繋船ガ多ク古船ハ解体シテ居ル

堀越理事

古船ハ解体シテドウスルノデスカ

岡田神戸支店長

支那方面へ鐵材ニシテ行クノガ一番多イ相デス、今コ、ノ

海運界デハ金輸出禁止ニ關スル武藤サンノ演說デ再禁止ヲ
ヤレバー息付ケルト考ヘテ居ル

堀越理事

解禁前カラ英國ノ磅ハ弱カツタ

永池理事

支那ノ問題ハドウカ

岡田神戸支店長

今具体的ニ數字ハ出テ來マセン、今迄ハ左程デモ有リマセ
ンデシタガ今度ハ大分ヒドイ様デス

(低聲更ニ聽取シ得ズ此ノ間中根、堀越理事及神戸支店
長トノ間ニ問答アリタリ)

堀越理事

上海デハ日本人カラ物ハ買ハナイ賣ラナイ、又日本人ニハ
傭ハレナイ傭ハナイト云フ状態ナノデ、結局支那人ハ日本
人ニ傭ハレルトヒドイ目ニ逢フノデ表向ハ解雇シ殘務整理
ノ形デ殘ツテ居ル有様ダ相デス、從來餘リ悲觀セヌ人モ有

岡田神戸支店長

ツタガ今度ハ大部ヒドイラシイ

船ニモソウイフコトガアリマシテ内地人ヲ儲ツタトキヨリ

モヒドイ目ニ合フ (外國銀行ノ預金ノコトヲ話シタガ

聞キトレズ)

堀越理事

米國デ日本ノ外債ガ非常ニ下ツタ、昨日ハ又七弗下ツタ、
前カラ見ルト五分半利付ガ九十五弗位シテ居タノガ十九日
ニハ七十五弗ニ下リ十八弗乃至二十弗下落シタ、個人デ黙
ツテ持ツテ居ル者ハ好イガ**バランシート**ヲ作ル者ニハ洵ニ
困ル、然シ日本ノ公債ハ諸外國ヨリハ強イ

一般ニ政府ノ低利資金ガ地方ニ入ツタト云フコト、米ヤ蘭
ノ相場ノ變動ヤ出來高カラ金融ニ對スル影響其ノ他何デモ
構ヒマセンガ平瀬サンドウデス

平瀬門司支店長

低利資金ハドノ位入ツテ居ルカ判リマセンカ郵便貯金ニ戻
ルノガ多イ様デス、ソレカラドコデモ同ジデスガ低利資金

ヲ貸シテ爾譯デモナイノデ銀行ガ息ヲ付イテ居ルト云フガ
コンナモノハ當テニナラヌ、爾ハ近頃ヨク知リマセンガ案
外良ク算盤ガ取レタ、人ヲ備ハナイデ自家デヤレタカラデ
ス、昨日御話ノ有リマシタ年末金融ガ引締ルコトニ付テ申
上マス、私ノ地方ニドウ響クカト云フト直グニ別ノ影響ハ
來ナイ様ニ思ハレル、管内ノ銀行デ支店銀行ニ借入ヤコ
ルヲ取ツテ居ルモノハ少ク、ソノ方ノ壓迫ハナク安定シテ
居ル、之レカラ十二月迄ニ季節的ニ入用ノ資金ハ外カラ借
入ヲシナケレハナラヌガ重ニ日本銀行カラデ中ニハ支店銀
行ヨリスルモノモアルガ斷ツテ居ルノデ纏ツタモノハ國債
ヲ賣ツテ居ル様デス

年末ニ對シテハ矢張り警戒シテ居リ餘裕ノ有ルモノハ或ハ
良イ貸出先ガナイカラカモ知レマセンガ自分達デ手元ヲ十
分ニシテ居ルト云ツテ居マス、商人モ警戒シ銀行モ警戒シ

堀越 理事 事

テ居ルノデ突發ノ事故サヘナクバ昨年ヨリ年末ノ資金ハ少クテ濟ムカト思ハレル、世間一般ノ人ノ感ジハ昨年ハ非常ナ不安ヲ抱イテ居タガ今年ハ不安ハ抱クカモ知レヌガ少イ様ニ思ハレル、デモ井上大臣ガ上ニ在ル間ハ昭和二年ハ再ビ來ヌト云ツテ居マス、何シロアト二ヶ月デスカラ地方ニ及ボス影響ハ左程急激デハナカラウト思フ

大銀行ガ多イノデソレガ貸出利率ノ引上ヲヤリヤシナイカト思フ、モウ現ニヤツテ居ルガ年末ニ行ケバソノ状態ガ濃厚ニナルダラウ

平瀬門司支店長

石炭ハ排日ノタメ直接ニハヒ、カヌガ排日ノ結果諸方面ガ悪クナレバ石炭ニモヒ、イテ來マセウガ

堀越 理事 事

勝田サン

勝田熊本支店長

私ノ方ハ重ニ米デシテ一般ニ昨年ニ比シ八分何厘カノ減少デス、然シ七月頃カラ賣控ヘヲ爲シ從テ在高ハ昨年ヨリ多

イ、縣外へ出ル物モ減ツテハ居マス、一日ノ調ニヨルト二十五萬九千石デ昨年ヨリ四萬石多イ、思惑ノ結果生産者ニ一萬八千石、商人ノ手ニ二萬二千石多クアル譯デス
繭ハ大体相場ハ糸ト同様引合ツテ居マス、煙草ハ千萬圓位
デス、金融界ニ低利資金ハ弗々入ツテ來テ居マスガ銀行預
金ハ殖エズ大ザツバニ云へバ格別増減ハナク寧ロ減ツテ居
ル位デス、郵便貯金ハ殖エテ居マスガ低利資金ノ爲銀行預
金ハ殖エテハ居ラズ各行個々ニハ増減ガ有リマスガ大差ナ
ク全体ノ感ジハ農村ノ疲弊デ四月ノ定期預金モイツモ殖エ
ル筈ナノガ今度ハ利息ハ持ツテ歸ルシ、千圓ナラバ八百圓
ニナルトカ云フ状態デ著シキ變化ハ有リマセン、英國ノ問
題ト本行ノ利上ノ影響ハ短期間ノ爲知ルコトハ困難デスガ
金利ハ上リ氣味デ感ジハ切替ノ時五毛乃至一厘位上ゲル、
預金ノ利上ハ熊本デハ大銀行ノ支店ニ、鹿兒島デハ中央ノ

狀勢ニ支配サレル度ガ多イ、從テ預金ノ利上ノ問題ハ意見
モナク中央ヲ窺ツテ居ル、鹿兒島ニハ大銀行ノ直接ノ支店
ガナク預金利率モ高ク利下スル度毎ニハ下ゲズ又下ゲテモ
下ゲ方ガ少イ

英國兌換停止ノコトハ影響ガ有リマセン、新幣價ノ問題モ
新聞ノ材料デ知ツテル丈デアマリ氣ニカケテ居ラヌ様デス
乾燥無味デスガ以上ノ様デス

堀越 理事

貸出ハ一厘ノ引上ニナルデスナ

勝田熊本支店長

有價證券ノ値下リ問題ハ當地方ニ中央株ナク、地方株ハ少
シモ下ツテ居リマセン、例ヘバ熊本電氣ハ五月一日六十圓
デシタノガ現在五十九圓五十錢デ別ニ中央株市場ノ影響ハ
有リマセン、鹿兒島電氣ノ株モ五月五十一圓五十錢ガ今五
十二圓三十錢デス

堀越 理事

君島サン